

佳作

すてきなばあば

鹿児島県 中種子町立南界小学校四年 提 希果

「夏休み、広島に来てね。待っているからね。」

「うん。待っててね。行くからね。」

ばあばは、広島でじいじとひいおばあちゃんの三人でくらししている。じいじもひいおばあちゃんも病気で、じいじは二年前から歩くことも話すことも食べることもしない。ひいおばあちゃんは歩くことも話すことも食べることも出来ないが、ばあばのことを自分のむすめだと分かっている。そんな二人の事をばあばは、一人で見ているのだ。

じいじのお世話は、三度の食事、おむつを代える、顔をふく、歯をみがく、ひげをそる、きがえ、水分ほきゆう、たんのきゆういんなどたくさんだ。うちを出すことや、お風呂に入れることは一人では無理なので、係の人やかんごしさんなどが来て、手伝ってくれる。ひいおばあちゃんのお世話で一番大

変なのは、トイレだ。もし転んだらこっせつしてしまうのでついて行かないといけない。ひいおばあちゃんは夜中にも何度もトイレに起きるので、ばあばはゆっくりねられないのだ。こんな大変な毎日にも関わらず、電話で聞けばあばの声は、いつも明るいのだ。

わたしたちが広島へ行くと、ばあばはいつも笑顔で出むかえてくれる。そんなばあばはたいへん物知りで、わたしの喜ぶチョコパフェを作ってくれたり、文具屋さんにつれて行ったりしてくれる。この前、こんなことがあった。ばあば、妹、わたしの三人で大阪まで「シルク・ドゥ・ソレイユ」を見に行ったときのことだ。大阪駅に着くと、ばあばが

「大阪の人はねえ、みんなやさしいんよ。」

と言っていた。わたしは本当かなあと思っていた。その後、三人でモスバーガーを食べに行ったがいい席があいていなかった。

「これじゃあ、食べられんねえ。」

とばあばが言ったので、とてもがっかりした。おなかもぺこぺこだった。その時、二人のお姉さんが「この席どうぞ。わたしたち別の席で大じょう夫です。」

と言って席をゆずってくれた。わたしが

「本当にやさしいね。大阪の人。」
と言うと

「ほうじゃろ。」

とばあばが笑いながら言った。わたしも妹も一しよに笑った。ばあばはやっぱり物知りでいろいろな事を教えてくれる。

ばあばはとてもやさしく、人のためにがんばってくれている。わたしは、じいじとひいおばあちゃんのお世話はつらいと思うけど、ばあばはつらいとは思っていない。

「他の人はつらいと思うかもしれないけど、ばあばには出来る事だからやれるんよ。」

わたしたちの前ではいつも笑顔なばあばはすごいと思う。わたしも、大きくなったらばあばみたいに人のために何かをがんばれるすてきな人になりたい。